令和3年度　中学校道徳教科書「新訂　新しい道徳」

「考え、議論する道徳」を実現する道徳教材

「考え、議論する道徳」を実現するために、教材文そのものの構成内容を工夫しています。定番教材である「二通の手紙」とオープンエンド型の教材「選手に選ばれて」を例に、ご紹介いたします。

3年

付録③「二通の手紙」

175～179ページ

「二通の手紙」は、主人公の行動の是非についての活発な意見交換を通して、ねらいにせまっていく展開となります。この意見交換（考え、議論する）の時間を十分に確保できるように、原典の冒頭部分と末尾部分を削除して教材文を作成しています。

原典冒頭部分（削除した部分）

「駄目だと言ったら駄目だ。」
「どうしてですか。かわいそうじゃないですか。僕、入れてあげますよ。」
「お前が言わないのなら俺が言う。そこをどくんだ。」
立ちはだかる山田を押しのけて、佐々木は窓口に顔を出した。

本教材冒頭部分

「申し訳ございません。お客様。あいにくたった今、入園券の販売を終了いたしましたので、規則上お入れするわけにはまいりません。またのご来園をお待ちしております。」
高校生くらいの二人組の若い女の子は、佐々木さんの言葉に不服な顔をしながら去っていった。

本教材末尾部分

はればれした顔で元さんは身の回りをかたづけ、そして、この日をもって自ら職を辞し、職場を去っていった。

原典末尾部分（削除した部分）

今日のようなことがあると、元さんのあの日の言葉がよみがえってくるんだよ。
佐々木は、窓越しに園内を眺めながら最後の言葉をつぶやくように言った。
「ご来園のお客さまに閉園時刻のお知らせをいたします。……。」
ちょうどそのとき、退園を促す園内アナウンスが流れ始めた。

この教材のねらいは、**「遵法精神、公徳心」**です。「二通の手紙」の原典冒頭部分は、「思いやり」を重視するものとなっています。この部分があると生徒の考えが「思いやり、感謝」に向かいかねません。
「考え、議論する道徳」では、ねらいとする道徳的価値に関する自分の考え方、感じ方を明らかにして、互いに考えを述べ合い、深め合うことが大切になります。冒頭部分を削除することにより、生徒がねらいにそった共通したテーマで考えることができる教材にしています。

原典は、「現在⬇回想⬇現在」という構成となっています。本教材では、「現在⬇回想」というように回想部分で終えています。末尾の現在部分を削除することで、元さんが職を辞し、職場を去っていったことをより強く伝えることができます。このことにより、ねらいとする**「遵法精神、公徳心」**を生徒が自分事としてしっかり捉え、「考え、議論する道徳」が実現できるようになります。

3教　内容解説資料
この資料は、令和3年度中学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

東京書籍

1年

2「選手に選ばれて」
13～15ページ

本教材末尾部分

A君のエゴか、学級の暴力か、議論は結論の出ないまま時間切れとなった。しかし、これはだいじなことだからもういちどみんなで話し合おうということで、この日は終わった。

「選手に選ばれて」では、体育祭のクラス対抗リレーの選手に選ばれたA君の意見とクラスの意見が合わず、結論の出ない状態で教材文が終わっています。この後、どのようにこの道徳的問題を解決していくかという問いに生徒たちを直面させることで、問題解決への意欲を高めることができます。このようなオープンエンド型の教材を使った問題解決的な学習は、ねらいとする道徳的価値に根差した問題を主体的に考え、対話的な学びを通して、道徳的価値のよさや実現することの難しさを、深く考えることができます。本教科書では、教材文の終末に余韻をもたせるオープンエンド型の教材を採用することで、問題解決的な学習への対応を図りながら、「考え、議論する道徳」の実現を目指しています。

次の教材の末尾部分も、オープンエンド型教材を指向したものになっています。

1年

17「席替え」
100～103ページ

本教材末尾部分

この案に決定するときでさえも、自分のわがままをおし通そうとする人が何人かいた。私は悲しかった。これではみんなの心がばらばらだ。おたがいに自分のことばかり考えた利己的な行動が多すぎる。みんなで話し合ってみんなのために決めたことを、どうして守ろうとしないのだろう。

2年

2「住みよい社会に」
14～17ページ

本教材末尾部分

この記事を読み終えた後、先生が黒板に「住みよい社会に」と板書した。そして、
「みんなのマナーが、カメラによって監視されることをどう考えますか？」
と質問した。

3年

15「好きな仕事か安定かなやんでいる」
91～93ページ

本教材末尾部分

いろいろな立場の人が、いろいろな意見をもっている。考え方は人それぞれだが、進路を選ぶときに大切なものは何なのだろうか。中学三年生の今だからこそ、真剣に考えてもらいたい。

東京書籍